

WFASニュース

WFAS '99 ハノイ国際鍼灸学術シンポジウム報告

津谷喜一郎¹⁾ 黒須幸男²⁾

1) 全日本鍼灸学会国際部部長

2) 同国際部顧問

はじめに

世界鍼灸学会連合会(WFAS)の1999年度国際鍼灸シンポジウムが、1999年11月9日から11日の3日間、ベトナム・ハノイ市のメリタス・ウェストレイク・ホテルで開催された。主催はベトナム厚生省と全国ベトナム鍼協会、共催はWHOとWFASであった。大会のテーマは「二十一世紀に向かったの公衆衛生としての鍼灸」であった。

参加数は、49ヶ国・地域から434名で、そのうち外国から約160名、その内訳は中国30名、韓国27名、台湾15名、アルゼンチン11名、日本10名、イタリア6名、フランス5名、オーストラリア4名、インドネシア3名、その他は1名ないし2名のところが数カ国であった。ベトナムは54県から2名づつが代表で出席、その他有志が参加した。公用語はベトナム語、英語、フランス語、中国語の四カ国語で、同時通訳によって行われた。

1. 開会式

開会式では、大会会長・Nguyen Tai Thu(全国ベトナム鍼協会会長)、厚生大臣・Do Nguyen Phuongs、WFAS前会長・王苔雪、WHOベトナム駐在代表・Pascal Brudon、中国衛星部国際協力局長・沈志祥、WFAS事務総長・登良月、の順に挨拶と経過報告が行われた。

2. 病院見学

開会式後、海外からの参加者はバスに分乗してベトナム国立鍼研究所・病院の訪問見学を行った。本病院は鍼灸の専門病院で、病院自体は80年前に建てられた総合病院であったが、今から17年前に鍼灸の専門病院となり、診察から診断にいたる過程は現代医学的医療器具が具備され、治療は現代

的な手法と伝という学的手法が巧みに採用されている。また、内科、外科(鍼麻醉科)、婦人科、小児科等の病棟に別れ、入院のためのベッド数は400床で、おそらく世界でも一番大きい鍼灸専門病院であろう。鍼麻醉は、中国などでは下火になっているが、ベトナムは本シンポジウムのテーマ「公衆衛生としての鍼灸」とあるように、開発途上国における鍼の位置付けとして、なお盛んに利用されているようである。

3. 招待講演

初日11月9日の午後は招待講演10題が行われた。まず、ベトナムを代表してLe Van Truyen、Le Ngoc Trong、Nguyen Tai Thuの3名、続いてJean Bossy(フランス)、Nguyen Van Nghi(フランス、病欠のためPhan Anh代読)、洪伯榮(アメリカ)、津谷喜一郎(日本)、張金達(カナダ)、黄煥松(オーストラリア)、申泰堉(韓国)、から主として各国の鍼灸事情について述べた。

この日の夜、厚生大臣主催の歓迎レセプションが開催される予定になっていたが、中止となった。今回のシンポジウムが開催される直前にベトナム中部で洪水があり、レセプションの費用を支援資金の一部に充てることになったからである。

4. 一般講演

一般講演は2日目(11月10日)と3日目(11月11日)午前8時から午後5時まで二開場に分かれ、58題が発表された。講演時間は1人15分で、質問はそれぞれのセッションでの発表が全部(7題から8題)終わったあと各自が演者を指名し効率良く行われた。以下セッションのテーマを記す。

11月10日 A会場 午前「鎮痛と鍼麻醉」

- 11月10日 A会場 午後「神経学」
 11月10日 B会場 午前「鍼の基礎研究」
 11月10日 B会場 午後「内分泌系とアレルギー」
 11月11日 A会場 午前「運動器」
 11月11日 A会場 午後「東洋医学の研究と理論」
 11月11日 B会場 午前「内科学」
 11月11日 B会場 午後「薬物依存に打ち勝つ
 指圧・気功」

5. 閉会式

午後7時からグランドホールで閉会式が行なわれ、Nguyen Tai Thuベトナム鍼灸協会会長の謝辞、続いて登良月事務総長、洪伯榮新会長のあいさつ、そのあとベトナムのLe Ngoc TrongならびにNguyen Tai Thu大会長やWFAS関係役員から交代に参加証が参加者全員に手渡された。

閉会式のあと、メリタスホテル最上階のラウンジでさよならパーティーが行なわれた。各国参加者はようやくリラックスした気分で料理に舌鼓をうちながらビールやワインなどで何度も乾杯し旧交をあらためつつ、また新しい友人を紹介しあったり楽しい一夜を過ごすことができた。

6. 執行委員会

初日11月9日午後7時から第4期第2回執行委員会メリタスホテルのサイゴンの間において開催された。

前会長と正副会長を含め、20名の執行委員のうち、3名の死亡者と4名の欠席者があり、13名の執行委員で開催された。出席者は、前会長・王雪苔(中国)、事務総長・登良月(中国)、副会長としてJean Bossy(フランス)、黒須幸男(日本)、張金達(カナダ)、洪伯榮(アメリカ)の3名、執行委員として津谷喜一郎(日本)、申泰堉(韓国)、Christian Rempp(フランス)、王雅(アルゼンチン)、Nguyen Tai Thu(ベトナム)、王煥松(オーストラリア)、Kevin Plaisted(ニュージーランド)の6名であった。

前会長・王雪苔が議長をつとめ、会議に先立って98年に死去したZ. Garnuszewski副会長(ポーランド)、99年4月20日に死去した陳紹武会長、99年5月7日に死去したAlfio Bangrazi執行委員(イタリア)の冥福を祈って1分間の黙祷が捧げられ

た。

主な議題として、まず過去2年間の事業報告が登事務局長よりあった。つぎに憲章の規約変更について討議され、執行委員数を現20名から30名に、副会長数を現6名から8名にすることが決まった。これは紀元2000年の第5期代議員総会で正式にきまることになる。

紀元2000年のWFAS・第5回世界鍼灸学術大会は、オーストラリア・シドニーで開催が予定されていたが、オリンピックを控えての資金難から急遽辞退表明があり、協議の結果、韓国での開催が決まった。担当は(社)大韓鍼灸師協会(会長・申泰堉)があたり、2000年の10月か11月に開催される予定である。

WFASにはまだ会計監査制度がなく、日本側はその設定を強く求めたが、中国側は政府の承認を得ているとのことでその必要は認めず、またアルゼンチンの代表ら中国系の執行委員の反対もあって否決された。WFASは本来憲章にもある通り、非政府組織(non-governmental organization: NGO)であり中国政府が関与するのは筋違いであるが、そのことが理解されないようである。中国の強い反対には、何かさらに別の理由があるのかもしれない。

最後に陳紹武会長の死去に伴ない後任の会長を執行委員の選挙により選ぶことになっている。アメリカのDavid P. J. Hungと日本の黒須幸男が立候補した。その結果、洪伯榮8票、黒須幸男5票で、会長には洪伯榮が選出された。

おわりに

今回のシンポジウムは、本来の開催地のインドネシアが政情不安で開催不能となり、急遽、ハノイに変更され開催されたものである。わずか一年足らずの準備期間で一応の成功をもって開催できたことは、Nguyen Tai Thu会長以下大変な苦勞であったことと察せられる。

本シンポジウムはこれまでのWFAS世界大会やシンポジウムが主に鍼灸の技術的側面に焦点を合わせられていたのに対し、「21世紀に向かっての公衆衛生としての鍼灸」が中心テーマとして掲げられていた。奇しくも、同じく昨年1999年6月の横

浜での第48回全日本鍼灸学会学術総会のテーマが「21世紀をあゆむ鍼灸 国民のニーズに応える鍼灸医療の確立を」であった。双方とも同じように社会医学の視点から鍼灸を見たものであった。

開発途上国で社会主義国であるベトナムと、先進国で自由主義国である日本との違いはあるが、同じ中国文明圏に属し、鍼灸も中国からは独立してユニークな発展を遂げた両国はいろいろな面で共通点が多い。シンポジウムの2日目、10日の夜、海外からの参加者は、升龍水上木偶劇院でベトナム伝統芸能の「水上人形劇」を観劇した。その芸能も何か、日本とよく似たものを感じさせたものであった。ベトナムについて全体を一口で言うと、日本と同じで小振りて湿潤であり、中国の大柄で乾燥とは違うのである。

シンポジウムでは、世界の「鍼灸」などと叫ば

ずに、自国の足元をよく見て、その保健サービスにおける鍼灸のあり方を探るといった態度には大変好ましいものを感じた。全体の運営もスムーズで、海外からの参加者にも細やかな心配りがなされていた。これまで、WFAS関係の大会の通訳は問題の多いものであったが、ベトナムという開発途上国という状況を考えると今回の通訳はよく出来ていたといえよう。全体としてシンポジウムに対するベトナム側の熱意も日本に似ていて、「よくやっている」と感心させられるものであった。

今後、鍼灸を含め日本とベトナムのより一層の交流が望まれる。

なお、一般演題講演の詳細などについては、黒須により「医道の日本」誌2000年3月から、数回にわたって報告される予定である。

〔了〕

東洋医学を身につける

すぐれた東洋医療技術と科学する情熱、
そして豊かな人間性を兼ね備えた医療従事者の養成を
めざしています。



■ 修業年限：全日制3年 ■ はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師養成施設



学校法人 大麻学園

四国鍼灸専門学校

〒769-0205 香川県宇多津町浜五番丁62
TEL.0877-49-5800 FAX.0877-49-5758